

## ◎まとめ

第1回調査（6月16日～22日）では、Aプロット（アカネズミ1枚・ニホンカモシカ2枚）の2種3枚の撮影。Bプロット（ニホンカモシカ4枚）の1種4枚の撮影。Cプロット（キビタキ♀1枚・アカネズミ7枚・ニホンカモシカ1枚・ニホンザル1枚）の4種10枚の撮影が確認された。第1回調査では、Cプロットの撮影確認枚数が多い結果となった。

第2回調査（7月27日～8月6日）では、Aプロット（ニホンカモシカ2枚・アカネズミ2枚）の2種4枚の撮影。Bプロット（アカネズミ15枚）の1種15枚の撮影。Cプロット（ゴジュウカラ幼鳥1枚）の1種1枚の撮影が確認された。今回の調査では、Bプロットでの撮影枚数が多くなったが、Cプロットについては、センサーカメラの設置位置が低すぎたのか、前方のオオカメノキの葉に邪魔（風によりレンズをふさいでいた。）され、殆ど撮影が確認できなかったが、誘因物が全く残っていないことから、アカネズミが食べたものと推測している。

第3回調査（10月19日～28日）の前に、A・Bプロットの2箇所を各2列（1列5m×10m）を抜き切り（スギのみ）し、その影響がどのように変化するか検証することとした。

その結果、Aプロット（アカネズミ1枚）の1種1枚の撮影。Bプロット（アカネズミ2枚・コウモリ1枚）の2種3枚の撮影。Cプロット（アカネズミ3枚）の1種3枚の撮影が確認され、過去2回の調査とは大きな変化は現れなかった。

以上3回の調査で、6種類の小動物等の確認に止まったが、来年度以降もこの調査を継続して行い、動物生息状況調査及び自然再生モデル林の広葉樹林化に向けた植栽や枝打ち等の自然再生活動を行いながら、今後どのような変化がみられるのかを検証していく予定である。

平成21年12月

実施者 津軽白神森林環境保全ふれあいセンター  
自然再生指導官 山上裕行  
" 川村幸春